

「飛鳥・藤原の宮都」の概要

1. 概要

- 「飛鳥・藤原の宮都」は、中国大陸及び朝鮮半島との交流のもと、日本列島においてはじめて生まれ、後代にも文化的影響を与えた古代国家の宮都の考古学的遺跡群である（6～8世紀）。
- 東アジアの古代国家形成期において、中央集権体制が誕生・成立した過程を、2つの連続する時代の宮都の変遷から示すことができる資産であり、人類にとって顕著な普遍的価値を持つ。

2. 構成資産

	宮殿・官衙跡	仏教寺院跡	墳墓
飛鳥の宮都	1 飛鳥宮跡 2 飛鳥京跡苑池 3 飛鳥水落遺跡 4 酒船石遺跡	5 飛鳥寺跡 6 橘寺跡 7 山田寺跡 8 川原寺跡 9 檜隈寺跡	10 石舞台古墳 11 菖蒲池古墳 12 牽牛子塚古墳
藤原の宮都	13 藤原宮跡	14 大官大寺跡 15 本薬師寺跡	16 天武・持統天皇陵古墳 17 中尾山古墳 18 キトラ古墳 19 高松塚古墳

所在地：奈良県 橿原市:11、13、14(一部)、15 / 桜井市:7 / 明日香村:1～6、8～10、12、14(一部)、16-19

3. 経緯・スケジュール（見込み）

令和7（2025）年

- 1月28日 閣議了解を経て、ユネスコ事務局へ正式版推薦書を提出
- 9月 国際記念物遺跡会議（イコモス）による現地調査

令和8（2026）年

- 6月6日 イコモスから「記載」の勧告
- 7月26日 第48回世界遺産委員会において世界遺産一覧表への記載決定

